

## えだわんだより

1月号

令和 7年 12月 24日発行

## 共に伸び 共に輝け 感謝・感動 しなやかえだわん

え 笑顔で あいさつ

だ だれもが 安心

ひ 一人一人 みんなちがって みんないい

か がんばろう 最後まで

し 信じ合おう 友達



子どもの目が輝くとき



文と絵

校長 北村 高則

授業中、子どもの目が輝くときがあります。

「今日はここまで。」

「まだやりたい！」

そこには、誰かに言われて鉛筆を動かす姿ではなく、自分の意志で学びに向かう姿があります。

ではどんなときに、このような状態になるのでしょうか。



1 自分の力では解決できない問題に出会い、でも「あと少し」でできそうなとき

2 挑戦を続け、今までの自分を越えられそうだと感じたとき

3 友だちと競い合い、認め合いながら、学びが進んでいるとき

4 問いが次々に生まれ、自分で考え、それを確かめたくなるとき

5 練習や試行錯誤を重ね、できなかつたことが「できる」に変わったとき



この5つに共通している言葉は「もう少し」です。挑戦のすぐそばに手応えがあるとき、子どもの目は輝きます。



で解決できそうな見通しをもったとき子どもの目は輝くと言っていいでしょう。学校でもご家庭でも、子どもたちが感じる「もう少し」を、温かく応援していきましょう。

つづき (次回)